

除草剤と選択性

八月末に、農林水産省より発表された昭和58年産水稻の作況指数は、全国平均では平年並みとなっているが、北海道・青森・岩手では冷夏の影響を受け、とくに北海道では凶作が予想されており、ままにならない自然条件にいらだちを覚える。

さて、自然界にはナマズのように地震を予知したり、また有袋動物のある種のは風雨を前もって察知し、巣の入口を土で固めて水の入るのを防ぐなど、不思議な能力を持つ動物がいるようであるが、私どもの京都試験農園前園長Gさんの話では、動物と植物の間の奇妙な現象にしばしば遭遇するそうである。ナツメが熟する頃になると蜂が訪れるが、一番先に口をつけるのは好物のオオナツメであり、それを食べつくすと普通のナツメに移って行く。鳥は同じウリ科で外観が酷似しているスイカとコロシントウリを区別し、食べ頃になるとスイカには嘴をつけるが、コロシントウリは絶対に食べない。子連れ猪がやってきて、人間でも見間違えそうな植物を識別し、山芋は1本残さずに食べるがオニドコロには見向きもせず、同じユリでも食用ユリだけを食べるのだそうである。

除草剤にも高度の選択性が、医薬におけると同様に要求され、また必要とされている。私たちもこのような動物の不思議な習性にあやかり、人間の知恵と経験を生かし、動物が彼等の本能によって夫々の植物を選択するような高度の選択力を備えた除草剤を開発し、難防除雑草の防除に役だちたいものと念願している次第である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事 森本至郎〕
武田薬品工業株式会社取締役農業事業部長

目 次 (第17巻第6号)

畑作除草剤使用の現状と将来——二、三想うこと——	2
＜四国農業試験場 加藤一郎＞	
1. 除草剤のローテーション使用	2
2. 除草剤の混用と混剤の利用	3
3. 防除体系の中での除草剤使用	4
野菜花き栽培における除草剤・生育調節剤使用の現状と将来——北海道編——	7
＜北海道農業試験場 永井 信＞	
1. は じ め に	7
2. 北海道における普及体制	8
3. 除草剤の北海道的利用場面	10
4. 北海道における野菜畑雑草の生態的特徴	10
5. 除草剤の利用形態	11
6. 除草剤の問題点と展望	11
7. 生育調節剤の現状と展望	12
佐賀県における湛水土壤中直播栽培について	12
＜佐賀県農業主任専門技術員 金山 拓＞	
は じ め に	12
栽培方法の概要と問題点	13
お わ り に	17
昭和57年度秋冬作芝生関係除草剤・生育調節剤試験成績概要	17
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	